

美術科学習指導案

授業日時：令和7年 月 日 曜日 校時

対 象：

場 所：

指 導 者：

1. 題材名 「流れるカタチ 流れたカタチ～流木を使って～」

2. 生徒の実態

対象となるグループは、病弱を有する生徒3名、病弱と知的障がい併せ有する生徒1名で構成され、それぞれ中学校に準ずる教育課程（Ⅰ類型）、知的障害特別支援学校代替の教育課程（Ⅱ類型）を履修している。Ⅰ類型の生徒3名は1学年から3学年それぞれ1名ずつ、Ⅱ類型の生徒は3学年である。本題材における生徒の実態は次のとおりである。

生徒の実態
省略

3. 題材設定の理由

〈生徒観〉

本グループは生徒の実態差が大きいことと異なる教育課程を履修していることを踏まえて、それぞれ個別で目標を立てて取り組んできた。1学期にはポスターカラーを使用し、モダンテクニック、風景画、人権標語ポスターに取り組み、ポスターカラー等の用具の扱い方やポスターの役割について学習した。ポスター制作で学習した

視点を生かして、2学期は特別教室の用途を視覚的に示す教室表示を制作した。「見る人に伝わるように」工夫を凝らす場面が多く見られ、完成した作品は実際の教室前に掲示することでデザインが機能する場面を具体的に感じることができた。

4月からの半年間で様々な成長が見られ、精神的に不安定な生徒は当初よりも落ち着いて授業に取り組むことができるようになり、自己選択や自己決定の苦手な生徒は教員の支援を受けながら自分で決定する場面が増えた。また行き詰まった時に教員に対して意見を求めるなどの場面も以前より多く見られるようになった。しかしながら手先の不器用さから表現が思い通りにならなかったり、絵の具を使用する経験の少なさから意図せぬ混色により画面が濁ったりすることもあり、そういった出来事は生徒の表現活動に対する意欲を削ぐ体験となっていると思われる。「やってみよう」というポジティブな感情で題材に取り組む始めるが、その過程で自分のイメージと目の前の作品とのギャップを感じ、意欲や気力の低下に繋がっている。

〈題材観〉

本題材は流木を主材料とし、廃材等を組み合わせて立体作品を制作するものである。「中学校学習指導要領 第2章 各教科 第6節 美術 第2 各学年の目標及び内容〔第1学年〕 2 内容 A 表現 (1) ア (ア) 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。」「B鑑賞 (1) ア (ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること」、また「光村図書出版株式会社 美術1 p32-p33 材料に命を吹き込む」を受けて本題材を設定した。これまで多く平面作品の制作に取り組んできた本グループの生徒であるが、立体作品の制作に取り組む経験から、見方や感じ方を広げる事のできる機会としたい。流木や廃材を材料とすることで、同じ立体制作でも心棒から作る塑像と異なり、材料の形からモチーフを発想することができるために自己決定や自己選択の苦手な生徒にとって比較的取り組みやすいと考えた。様々な材料の形や色彩、性質、質感などの特徴を捉えて、それらを生かして表現することや、感じ取ったことを基に主題を生み出す事を期待する。「中学校学習指導要領 第6節 美術 第2 各学年の目標及び内容〔第1学年〕 1目標 (3) 楽しく美術の活動に取り組む創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。」を目標とする。

〈指導観〉

本グループは異なる教育課程と複数の学年が混在するが、上記の実態のとおり、I類型2・3学年の生徒B・Cは実態や学習空白を考慮した学習内容の調整をしているため、題材の目標、内容、評価規準を①「中学校学習指導要領 第2章 第6節 美術 第2各学年の目標及び内容〔第1学年〕」を適用したものと、②「特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領 第2章各教科 第2節中学部 第2款知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校 第1各教科の目標及び内容〔美術〕 2各段階の目標及び内容 ○第1段階」を適用したものの2つに分けて設定している。生徒ごとに目標等が異なるが題材は共通したものを設定し、T1からT3が連携してそれぞれの生徒の目標を達成できるよう注意深く観察、指導しているところである。特に生徒Dは活動の端々でつまずきや困難さが見られることからT1による口頭説明のみでなく、選択決定の場面では教員が選択肢を絞って提示するなどの支援を行っている。

本題材では、前時の振り返りや活動の説明をパワーポイントのスライドを用いてモニターに視覚的に提示する。加えて本時のスケジュール、コメントの入力方法においてはホワイトボードに常時掲示する。これにより記憶に困難さがある生徒Bが、活動の手順を随時自分で確認できるようにするねらいがある。生徒A・Dの見通しが持てないことへの不安を取り除き、見通しを持って活動できるようにするねらいもある。またモニターの活用は作例を視覚的に提示しやすく、生徒の活動の状況や主題、つまずきに対して参考となる作例を素早く提示でき、またそれをクラス全体で共有できるため、効果的であると考えている。長時間の活動は生徒A・Dにとって負担となることが考えられるため、適切なタイミングで生徒Dは姿勢の変換を、生徒Aは落ち着くことのできる場所(保健室等)で休養を行うかどうかの確認をすることとしている。生徒Cは授業内に発言することが極端に少ないが、授業後に考えていたことなどを話すことが多いため、授業中も何らかの疑問などを感じているものと捉え、困ったことはないか、どんな風に表現したいのか等を小声で尋ねるといった対応を取っている。臆することなく表現に取り組むことができる一方で、その技術は拙く、自らの想像と現実の差異を感じて納得できないことがあるため、教員と共に一緒に確認しながらゆっくり進めていく。鑑賞においては生徒同士で相互に行うが、生徒の特性上、感想を述べるなどの交流が難しいと予想される。発言することに対する恥ずかしさや、言葉の出づらさからくるものであるが、そのような生徒同士でも感想を相互にやり取りするためにMetaMoJi Classroomを使用する。感想等のコメントを匿名にした上で交流することで、意見を表出しやすくするねらいがある。言葉のみでなく絵文字等で意思表示が可能となる点もまた、相互の交流を活発にする可能性があると考えられる。生徒同士の作品を通じたコミュニケーションや言語活動を豊かにするために、それぞれの生徒の表出しやすい方法を模索しながら進めていくものとする。

3. 題材の目標

I 類型

観点	目標
【知識及び技能】	<ul style="list-style-type: none"> ・材料の形や色彩などが感情にもたらす効果を理解する。(共通事項) ・材料や用具の特性を生かして、意図に応じて工夫して表すことができる。(「A 表現」(2))
【思考力、判断力、表現力等】	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、性質、質感などの特徴や美しさ、想像したこと等を基に主題を生み出し、心豊かな表現の構想を練ることができる。(「A 表現」(1)) ・流木の形や材料との組み合わせのよさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げる。(「B 鑑賞」(1))
【学びに向かう力、人間性等】	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の創造活動の喜びを味わい、よりよい表現を求めて工夫し、友達の作品の意図を考える鑑賞の活動に主体的に取り組もうとする。

II 類型

観点	目標
【知識及び技能】	<ul style="list-style-type: none"> ・材料や用具の扱いに親しみ、表したいことに合わせて材料や用具を選んで使い表す。(「A 表現」ア (イ))
【思考力、判断力、表現力等】	<ul style="list-style-type: none"> ・経験したことや思ったこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想をする。(「A 表現」ア (ア))
【学びに向かう力、人間性等】	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく美術の活動に取り組み、友達の作品のよさや面白さに気付く鑑賞の活動に主体的に取り組もうとする。

4. 題材の評価規準

I 類型

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
【知】 材料の形や色彩などが感情にもたらす効果を理解している。 【技】 材料や用具の特性を生かして、意図に応じて工夫して表している。	【発】 材料の形や色彩、性質、質感などの特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、心豊かな表現の構想を練ることができている。 【鑑】 流木の形や材料との組み合わせのよさを感じ取り、自分や友達の表現の意図や工夫について考え、見方や感じ方を広げている。	【態表】 主体的に流木や材料の形や色彩、性質、質感などの特徴を捉え、感じ取ったことや考えたこと等を基にした表現の創造活動に取り組もうとしている。 【態鑑】 主体的に流木の形や材料の形や色彩、性質、質感などの特徴を捉え、友達の作品の意図を考え見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

II 類型

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
【技】 材料や用具の扱いに親しみ、表したいことに合わせて材料や用具を選んで使い表している。	【発】 経験したことや思ったこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想をしている。	【態表】 楽しく美術の活動に取り組み、経験したことや思ったこと、材料などを基にした表現の活動に主体的に取り組もうとしている。 【態鑑】 楽しく美術の活動に取り組み、友達の作品のよさや面白さに気付く鑑賞の活動に主体的に取り組もうとしている。

5. 指導計画 全12時間（I類型2学年3学年は6時間）

時間	学習のねらい	生徒の活動		評価方法・留意点等	
		I類型1学年、II類型3学年	I類型2・3学年	I類型	II類型
1	<ul style="list-style-type: none"> 流木と他の材料からなる立体作品について知る。 グルーガンの使い方について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 作例を見て、流木と他の材料を組み合わせた立体作品について理解する。 		<p>知 材料の形や色彩などが感情にもたらす効果を理解しているか見取り、困難さの見られる生徒に対して具体的に示しながら指導を行う。</p> <p>【活動の様子】</p> <p>鑑 流木の形や材料との組み合わせのよさ感じ取り、作例の表現の意図や工夫について考え、見方や感じ方を広げられたかどうかを評価する。</p> <p>【活動の様子】</p>	
1	<ul style="list-style-type: none"> 作品の構想を練る。 グルーガンの扱い方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 流木や他の材料に触れながら作品の構想を練る。 グルーガンを実際使用し、使用方法を確かめる。 		<p>発 材料の形や色彩、性質、質感などの特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、心豊かな表現の構想を練ることができているかを見取り、作例を参考にすることで、表現したいことが構想できるよう指導する。</p> <p>【活動の様子、ワークシート】</p> <p>技 用具の特性を生かして、意図に応じた扱いができているか見取り、困難さの見られる生徒に対して、用具の扱いの手本を見せ具体的に指導する。</p> <p>【活動の様子】</p>	<p>発 経験したことや思ったこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想をしているかを見取り、複数の作例の中からどれが自分の考えに近いかなどを考えるよう指導を行う。</p> <p>【活動の様子、ワークシート】</p>
3 (1)	<ul style="list-style-type: none"> エスキースを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品の構想を練り、エスキースを作成する。 使用する流木を決定し、他の必 		<p>発 材料の形や色彩、性質、質感などの特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、心豊かな表現の構想を練ることができているか</p>	<p>発 経験したことや思ったこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想をしているかを見取り、複数の作例の中から</p>

		<p>要な材料について考え、ワークシートにまとめる。</p>	<p>を見取り、作例を参考にするなどして、表現したいことが構想できるよう指導する。</p> <p>【活動の様子、ワークシート】</p>	<p>どれが自分の考えに近いかなどを考えるよう指導を行う。</p> <p>【活動の様子、ワークシート】</p>
6 (3)	<ul style="list-style-type: none"> 材料を構成、接着して制作する。 	<ul style="list-style-type: none"> エスキースをもとに材料を構成して接着する。 必要に応じて着彩する。 	<p>技 材料や用具の特性を生かして、意図に応じて工夫して表しているかを見取り、困難さの見られる生徒に対して作例を示したり、用具の扱いの手本を見せたりして具体的に指導する。</p> <p>【活動の様子、作品】</p> <p>発 材料の形や色彩、性質、質感などの特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、心豊かな表現の構想を練ることができているかを見取り、作例や構成例を示し、構想の練り方について指導を行う。</p> <p>【活動の様子、作品】</p>	<p>技 材料や用具の扱いに親しみ、表したいことに合わせて材料や用具を選んで使い表しているかを見取り、材料や用具が選択できない場合は、その特徴を言葉で説明したり実際の使用の様子を見せたり、選択肢を絞って提示したりする。</p> <p>【活動の様子、作品】</p> <p>発 経験したことや思ったこと、材料などを基に、表し方を考えて、発想や構想をしているかを見取り、困難さの見られる場合は作例の中でも生徒の作品に似たものを提示して工夫されている点やその効果について具体的に示し、自らの作品に反映できるよう指導する。</p> <p>【活動の様子、作品】</p>
1	<ul style="list-style-type: none"> 相互鑑賞をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の作品を鑑賞し、自分や友達の作品のよいところ、工夫しているところを見つける。 	<p>態鑑 主体的に流木や材料の形や色彩、性質、質感などの特徴を捉え、友達の作品の意図を考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p> <p>【活動の様子、MetaMoji Classroom】</p>	<p>態鑑 楽しく美術の活動に取り組み、友達の作品のよさや面白さに気付く鑑賞の活動に主体的に取り組もうとしているかどうかを評価する。</p> <p>【活動の様子、MetaMoji Classroom】</p>

6. 本時の指導（12/12（6/6））

（1）目標

教育課程	目標
I 類型	<ul style="list-style-type: none"> ・流木の形や材料との組み合わせのよさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げる。 ・主体的に流木や材料の形や色彩、性質、質感などの特徴を捉え、友達の作品の意図を考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
II 類型	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく美術の活動に取り組み、友達の作品のよさや面白さに気付く鑑賞の活動に主体的に取り組もうとする。

（2）展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準
10分	1 前時の振り返りをし、本時の活動を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品を鑑賞し、MetaMoJi Classroom を使用して作品に対するコメントをするよう伝える。 	
		友達の作品を鑑賞し、特徴に着目してコメントしよう。	
20分	2 友達の作品を鑑賞し、作品に対するコメントを考えて、MetaMoJi Classroom に入力する。	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>ホワイトボードに本時のスケジュールを掲示する。（4）</u> ・<u>MetaMoJi Classroom のシートの場所、テキストの入力方法をホワイトボードに掲示する。（4）</u> ・友達の作品の“いいところ”を探そう伝える。 ・“流木の形の生かし方”“材料の組み合わせ方”の2点に着目するよう伝える。 ・<u>生徒 A が授業を受け続けることが困難な場合は、落ち着ける場所（保健室など）で過ごす。その際 T2 が対応する。（6）</u> ・<u>生徒 B が排泄を訴えた場合は、トイレまで付き添い、外で待つ。この際 T3 が対応する。（6）</u> ・生徒 C に対しては、順調か、困ったことはないかなど、近づいて小声で尋ねて応答を待つ。この際主に T1 が対応する。 ・<u>生徒 A 生徒 D は言葉選びに困ることが</u> 	<p>態鑑 主体的に流木や材料の形や色彩、性質、質感などの特徴を捉え、友達の作品の意図を考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。（I 類型）</p> <p>【活動の様子、MetaMoJi Classroom】</p> <p>態鑑 楽しく美術の活動に取り組み、友達の作品のよさや面白さに気付く鑑賞の活動に主体的に取り組もうとしているかどうかを評価する。（II 類型）</p> <p>【活動の様子、MetaMoJi Classroom】</p>

		<p>予想されるため、コメントの例を予め <u>教員が入力しておき参考にさせたり、 絵文字での表出など他の選択肢を提示 したりする。この際主に T1 及び T3 が 対応する。(5)</u></p>	
15分	3 本時の活動 について振り 返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りをする。 ・自分の作品に対するコメントを読むよ うに伝える。 ・<u>次時の活動内容について確認をする。</u> (4) 	

※アンダーライン・() の数字は、「特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領 第2章各教科
第1節小学部 第1款視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である児童に対する教育を行う特別支
援学校 4病弱者である児童に対する教育を行う特別支援学校」の項目に対応している。

(3) 評価及び指導の例

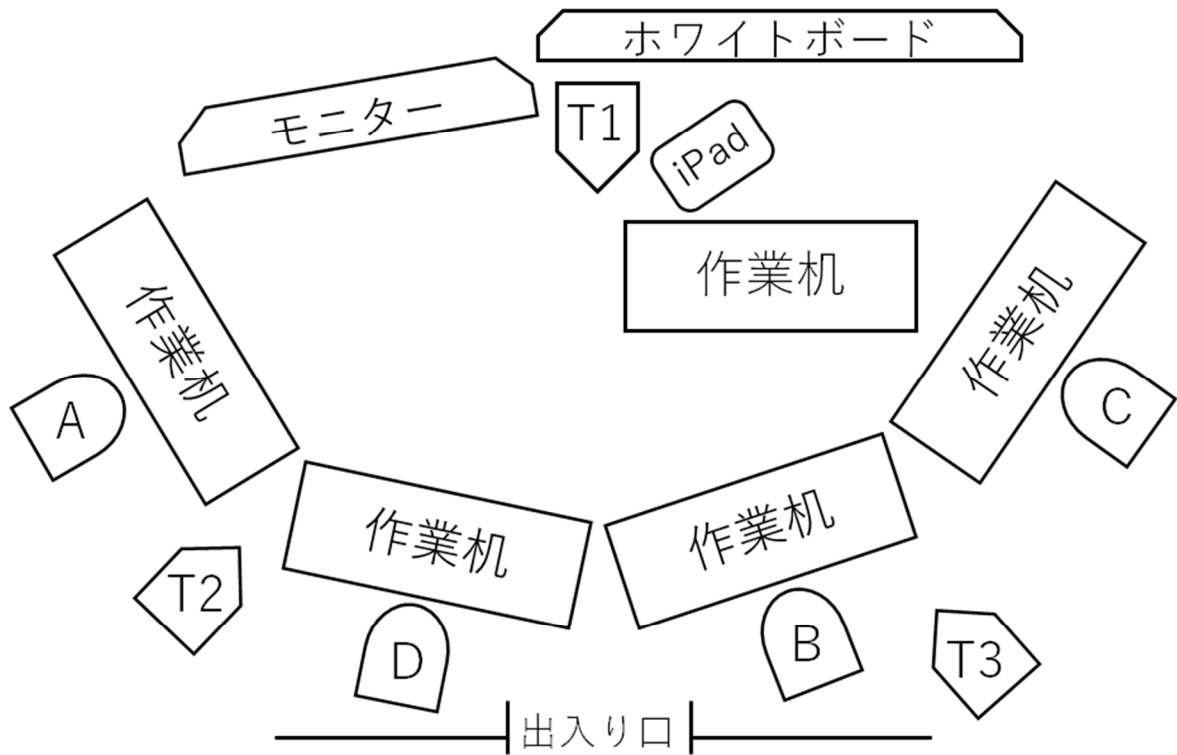
「十分満足できる」と 判断される状況	I 類型	<ul style="list-style-type: none"> ・流木の形や材料との組み合わせのよさを感じ取り、作者の心情や表現の意 図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げている。 ・主体的に流木や材料の形や色彩、性質、質感などの特徴を捉え、友達の作 品の意図を考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとし ている。
	II 類型	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく美術の活動に取り組み、友達の作品のよさや面白さに気付く鑑賞の 活動に主体的に取り組もうとしている。
「概ね満足できる」状 況を実現するための 具体的な指導	I 類型	<ul style="list-style-type: none"> ・材料の形や色彩、性質、質感などの特徴、また組み合わせの面白さについ て言葉で説明する。 ・様々な表出の仕方を提示する。
	II 類型	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品の特徴を言葉で説明したり、感想となる言葉を複数挙げ自分の 気持ちに近いものを選ばせたりする。

7. 準備物及び環境設定

(1) 準備物

鉛筆各種、消しゴム複数、iPad、モニター、ホワイトボード、ホワイトボードマーカー各種、作業机×5、
パイプ椅子×5、それぞれの生徒作品

(2) 配置図



図右側に刃物類を保管している棚があるため、一番遠い位置に生徒 A を、その内側に T2 を配置している。生徒 D は車椅子を使用しているため、生徒 B は頻尿のため出入口付近に、T3 は生徒 B と生徒 D にすぐに対応できる位置に配置している。